世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
武蔵野大学 学術機関リポジトリ
Musashino University Academic Institutional Repository

Global studies第5号 : 表紙,執筆要網,執筆者一覧,奥付

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1487

ISSN 2432-7476

GLOBAL STUDIES
グローバルスタディーズ

5
2020

研究論文

1 日華学堂の学生たち―帰国後の活躍―――欒　殿武

19 「全員留学」経験者の人間的成長の可視化に関する研究――古家　聡・石黒　武人

39 COVID-19 の影響下におけるマクドナルド・コーポレーションの業績分析
―2020 年 4-6 月期決算を基に――― 高橋　敦

57 カナダにおける言語の多様性とバイリンガリズムの現状に関する一考察
―2016 年国勢調査を中心に――― チョウ アルバート

調査報告

73 学習リソースの使用とイントネーション産出の関係
―中国人学習者の終助詞「ね」「よ」「よね」の音読を中心に――― 鄭　穎

91 中国の日本語教師のオノマトペ指導に関する認識――崔　沫舒

111 ビジネス場面における日本語学習者の発話に対する日本語教師の評価
―印象形成の要因に着目して――― 小倉　文根

実践報告

125 初年次レポート・ライティングプログラムにおけるルーブリックの改善――藤浦　五月

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

Musashino University

武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所

武蔵野大学　グローバルスタディーズ研究所紀要
Global Studies　執筆要領

2020 年 5 月 26 日版

1. 投稿資格

グローバルスタディーズ研究所の研究員及び客員研究員、大学院言語文化研究科、グローバル学部の科目担当教員（非常勤講師を含む）、大学院言語文化研究科の大学院生及び修了生とする。また、以下のいずれかに該当する者は、グローバルスタディーズ紀要編集委員会で認めた場合に限り投稿することができる。

（1）本研究センター専任教員と共同研究に従事する者

（2）紀要編集委員会が特別に依頼した者

原稿は未発表のもので、1 人 1 編とする。共同研究の場合は 1 人 2 編までとするが、筆頭者としては 1 編しか投稿できない。

2. 使用言語

日本語、英語、中国語のいずれかとする。

3. カテゴリー（各カテゴリーの内容については「投稿に関する留意点」を参照のこと）

・研究論文
・実践報告
・調査報告
・研究ノート
・展望論文

4. 原稿作成上の注意

（1）原稿の様式と分量

・編集委員会指定の Word のテンプレートを使用する。

本文は、MS 明朝／Times New Romans,10.5pt

各章の見出しは、MS ゴシック 12pt（章の見出しのみ行間を段落 1.5 行とする）

節・項の見出しは MS ゴシック 11pt

・分量は、日本語・中国語原稿の場合は、20000 字以内、英語原稿の場合は、8000 語以内とする（注、参考文献、図表を含む）。

・B5 判で製本されることを考慮し、図表等の縮小率に注意すること。

（2）表記法（日本語）

①日本語は常用漢字、現代仮名遣いを原則とする。

②数字は原則として半角アラビア数字とする。ただし、「一切」「四半世紀」などの熟語、成句、固有名詞に限って漢数字を使用する。

③句読点は「、」「。」を使用する。

④句読点、「　」、（　）は全角で使用する。

（3）論文タイトル

日本語原稿には日本語のメインタイトル（MS 明朝 18pt、サブタイトルは 14pt）の下に英語タイトル（Times New Romans・14pt）を入れる。英語原稿・中国語原稿にはそれぞれの言語のメインタイトル（Times New Romans・18pt、サブタイトルは 14pt）の下に日本語タイトル（MS 明朝 14pt）を入れる。

（4）氏名（MS 明朝　Times New Romans　12pt）

漢字の氏名は文字と文字の間に半角スペースを入れる

（5）キーワード（MS 明朝　Times New Roman・10.5pt）

キーワードは 5 語以内とし、論文タイトル、氏名の下に記載する。

（6）文中の引用

・単著文献を引用する際には、加藤（2007）あるいは、加藤（2007，2009）のようにする。筆者名と出版年をかっこに入れるときは、（加藤，2009）とする。
・複数の文献を引用する際には、（加藤，2007；宇佐美他，2019；Erlam, 2005）のように名前の後に半角コロン+半角スペース、出版年、半角セミコロン+半角スペースとする。
・引用元のページは、加藤（2007：19）のように、出版年のあとに半角コロン+半角スペース、掲載ページを入れる。
・同一筆者による同じ年に出版された文献は、「加藤（2009a）」「加藤（2009b）」のように、年のあとに a，b…を入れて区別する。

（7）謝辞・注（MS 明朝　Times New Roman・9.5pt）

注は本文中に上付添字で 1）2）3）…と通し番号で示し、原稿末尾の参考文献の前にまとめる。ワードの脚注機能は使用しない。

（8）参考文献（MS 明朝　Times New Roman・9.5pt）

参考文献は謝辞・注の下にまとめる。以下の書式で統一する。

①英文書籍

Ellis, R. (2003) *Task-based Language Learning and Teaching.* Oxford: Oxford University Press.

②英文論文

Langacker, R. W. (2006) On the continuous debate about discreteness. *Cognitive Linguistics,* 17, 107-151.

③和文書籍

加藤周一（2007）『日本文化における時間と空間』岩波書店

④和文論文

石井敏（2001）「現代社会と異文化コミュニケーション」石井敏・久米昭元・遠山淳『異文化コミュニケーションの理論　新しいパラダイムを求めて』有斐閣ブックス, 1-7.

宇佐美洋・森篤嗣・広瀬和佳子・吉田さち（2009）「書き手の語彙選択が読み手の理解に与える影響―文脈の中での意味推測を妨げる要因とは―」『日本語教育』140, 48-58.

⑤ウェブの資料

文部科学省（2019）大学等におけるインターンシップの実施状況について.

https://www.mext.go.jp/b_menu/internship/1387151.htm （2020 年 1 月 1 日）

（9）所属（MS 明朝　Times New Roman・10.5pt）　右寄せ

学部・学科・職位等を原稿末尾に記載する

5. 原稿提出期日他スケジュール

年 1 回、委員会の定める期日までに提出する。

6. 原稿提出方法及び提出先

原稿は、武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所紀要編集委員会（gs_edit@musashino-u.ac.jp）宛に、電子データをメールにて提出する。

7. 提出原稿の校正

著者校正は 2 回までとする。校正段階での原稿の大幅な訂正、加筆、削除は控える。

以上

執筆者一覧（掲載順）

【研究論文】

欒　殿　武	Hirotake Ran	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科教授
古　家　聡	Satoru Furuya	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科教授
石　黒　武　人	Taketo Ishiguro	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科准教授
高　橋　敦	Atsushi Takahashi	グローバル学部グローバルビジネス学科教授
チョウ　アルバート	Albert R. Zhou	グローバル学部グローバルコミュニケーション学科教授

【調査報告】

鄭　穎	Zheng Ying	言語文化研究科言語文化専攻博士課程
崔　沫　舒	Cui Moshu	言語文化研究科言語文化専攻博士課程
小　倉　文　根	Ayane Ogura	言語文化研究科言語文化専攻修了生

【実践報告】

藤　浦　五　月	Satsuki Fujiura	グローバル学部日本語コミュニケーション学科講師

Global Studies 第5号

2021年3月1日発行

編　集　武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所紀要編集委員会

発　行　武蔵野大学グローバルスタディーズ研究所
〒135-8181　東京都江東区有明3－3－3
電話　03-5530-7312

印　刷　株式会社ワコー
〒102-0072　東京都千代田区飯田橋3－11－7
電話　03-3230-2511

ISSN 2432-7476

GLOBAL STUDIES

グローバルスタディーズ

5
2020

RESEARCH ARTICLES

1 A Study of the Nikka School students: Achievements after returning to China——Hirotake Ran

19 An Exploratory Study to Visualize Human Growth
Experienced through GC's Compulsory Study Abroad Program——Satoru Furuya・Taketo Ishiguro

39 Financial Analysis of McDonald's Corporation under the Impact of COVID-19:
Based on Financial Results in Apr-Jun, 2020——Atsushi Takahashi

57 Language and Dynamism amidst Linguistic Diversity:
A Look at Bilingualism in Canada Based upon the 2016 Census——Albert R. Zhou

SURVEY REPORTS

73 The Relationship between Use of Learning Resources and Prosodic Production:
Focusing on the Performance of Chinese Learners of Japanese
on Reading Tasks of Sentence-Final Particles *'ne', 'yo',and 'yone'*——Zheng Ying

91 Cognition of Chinese Teachers of Japanese regardingTeaching Onomatopoeia——Cui Moshu

111 Japanese Teachers' Assessment of Japanese Learners' Discourse in Business Settings :
Focus on the Impression Formation Factor——Ayane Ogura

PRACTICE REPORT

125 Improving Rubrics in a First-year Report Writing Program——Satsuki Fujiura

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

Musashino University

Musashino University's Institute for Global Studies